

1. 大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムについて

目的と使命

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、サブスペシャリティ領域の専門医取得へと連動すること

プログラムの特色

関西有数の研修施設群

大阪赤十字病院を基幹施設とし、連携施設には阪奈地域で**有数の研修病院・拠点病院・救急病院**として知られる複数の病院を配置しています。**いずれも通勤圏内**ですが、宿舎の幹旋もあります。病院の規模や地域性が異なり、幅広い経験が可能です。

屈指の手術数

グループ全体で高難度手術を含む**年間 7000 件を超える NCD 登録手術件数**を行っており、手術症例を経験するには極めて恵まれた環境にあります。

専門性の高い指導医陣

消化器外科専門医、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺専門医、小児外科専門医、内視鏡外科技術認定医、食道外科専門医、肝胆膵外科高度技能指導医を数多く配し、**高難度手術や鏡視下手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）を含め、最先端医療**を多く手掛け、サブスペシャリティへ早期に連続した研修が可能です。

女性医師支援

女性医師は年々増加傾向にあり、**女性医師が働きやすい環境整備**をすすめ、性別にかかわらず就業・キャリア形成ができるよう取り組んでいます。

キャリアパスサポート

京都大学外科交流センター所属施設、全国のがんセンター、こども病院など専門施設におけるサブスペシャリティ修練や大学院進学など**研修修了後の支援体制**が整っています。

2. 研修プログラムの施設群

大阪赤十字病院と連携施設（9 施設）により専門研修施設群を構成します。本専門研修施設群では 70 余名の専門研修指導医が専攻医を指導します。**地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、災害拠点病院、国際医療救援拠点病院**として、外科領域だけでなく幅広い研修が可能です。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科 2:心臓血管外科 3:呼吸器外科 4:小児外科 5:乳腺外科 6:その他(救急含む)	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
大阪赤十字病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	1. 森 章 (消化管外科) 2. 中山 正吾 (心臓血管外科) 2. 中出 雅治 (呼吸器外科) 2. 大野 耕一 (小児外科) 2. 露木 茂 (乳腺外科) 2. 金谷 誠一郎 (消化器外科)

専門研修連携施設

	名称	府県	1:消化器外科 2:心臓血管外科 3:呼吸器外科 4:小児外科 5:乳腺外科 6:その他(救急含む)	連携施設担当者名
1	田附興風会医学研究所北野病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	寺嶋 宏明
2	大阪府済生会野江病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	足立 幸人
3	市立岸和田市民病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	鍛 利幸
4	関西電力病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	河本 泉
5	大和高田市立病院	奈良県	1, 2, 5, 6	中山 裕行
6	KKR 枚方公済病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	竹山 治
7	美杉会佐藤病院	大阪府	1, 3, 5	河合 泰博
8	愛仁会千船病院	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	岡田 憲幸



連携施設 A

田附興風会医学研究所北野病院
大阪府済生会野江病院
市立岸和田市民病院
関西電力病院

連携施設 B

大和高田市立病院
KKR 枚方公済病院
美杉会佐藤病院
愛仁会千船病院

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の1年間 NCD 登録数は約 7000 例で、専門研修指導医は 70 名以上であり、年 14 名の研修が可能と判断されますが、専攻医一人一人に濃厚な研修が行えるよう、本年度の募集専攻医数は 12 名としています。

4. 外科専門研修について

1) 初期臨床研修修了後 3 年間の外科専門研修計画

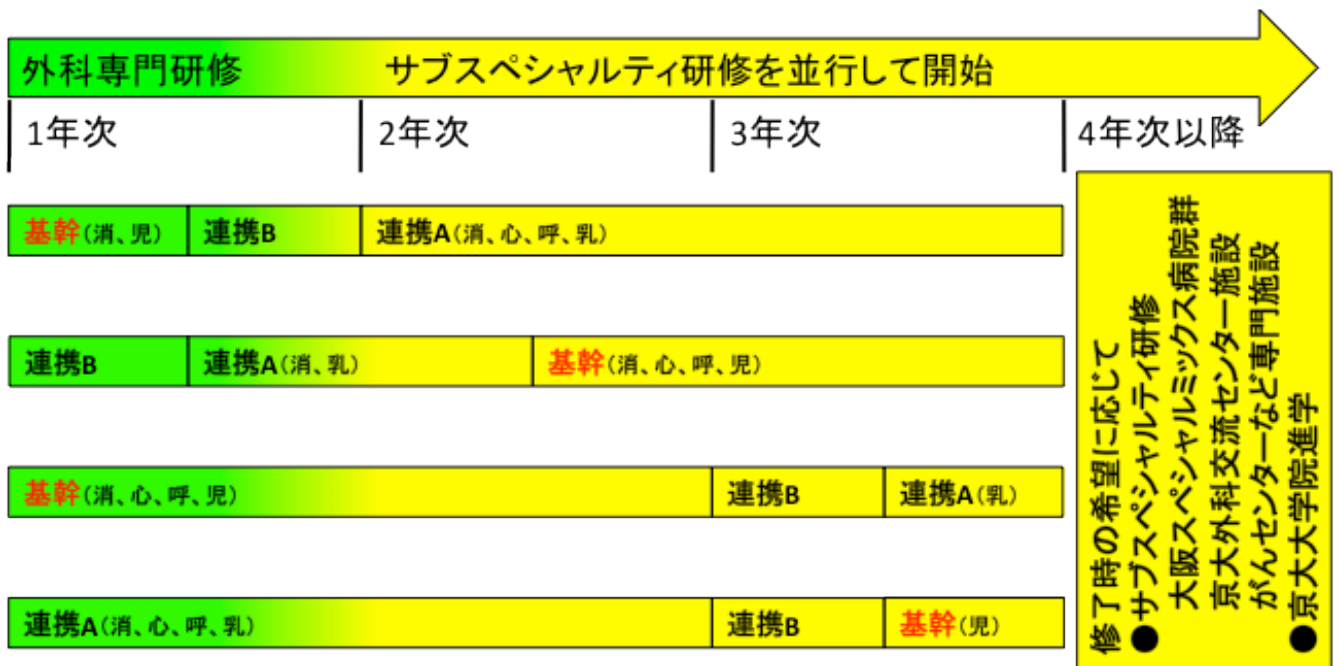
- 原則として基幹施設 6 ヶ月以上および連携施設 A と連携施設 B の 2 施設で計 6 ヶ月以上の研修を行います。各施設の研修内容や専攻医の希望に応じて柔軟に対応します。
- 専門研修の 3 年間に、医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準に基づいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、1 年目、2 年目、3 年目各年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 専門研修期間中からサブスペシャリティ研修に連動し、修了後は大学院進学を選択することも可能です。また、京都大学外科交流センターに所属する 64 施設での外科修練の継続、京都大学呼吸器外科や心臓血管外科関連病院での研修、ナショナルセンターへの異動の支援などアフターケアにも配慮しています。
- プログラム管理委員会の承認を得て、希望するサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科を含む）の経験症例数を調整することが可能です。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアルー経験目標 2・参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCD に登録されていることが必須）は、すべて外科専門医手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修 1 年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-ラーニングや書籍や論文などの通読、ビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修 2 年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加や手術ビデオの編集などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修 3 年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。
- 専門研修 2 年目から、各専攻医が希望するサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）専門医資格の取得に向けた技能研修を並行して開始することが可能です。専攻医の希望や経験症例に応じて専門研修プログラム管理委員会に諮り、プログラムの調整を行います。

(具体例)

下図に大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムの代表コース例を示します。原則として基幹施設である大阪赤十字病院で6ヶ月以上、異なる規模や地域性をもった連携施設AとBの2施設で計6ヶ月以上研修を受けられるよう配慮します。初期臨床研修を修めた同一施設で専門研修プログラムを開始することも可能です。各施設の研修内容や専攻医の希望に応じて柔軟に対応します。



大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても十分な症例数が経験できるように十分配慮します。当研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります(未修了)。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医資格の取得に向けた技能教育を開始し、修了後の進路については相談に応じます。

- ・ 専門研修1年目
 - 経験手術症例数 150 例以上 (術者 30 例以上)
- ・ 専門研修2年目
 - 経験手術症例数 200 例以上 (術者 90 例以上)
 - (2年目までに経験手術数 350 例以上、術者 120 例以上)
 - サブスペシャリティ領域(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科)
 - 専門研修を並行して開始します。
- ・ 専門研修3年目
 - 専攻医の希望に応じて、経験不足の外科領域を補充します。重点的にサブスペシャリティ領域専門研修を行います。関連領域(救急、麻酔、緩和、感染制御チーム、栄養サポートチーム、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、小児科など)をローテーションすることも可能です。
- ・ 専門研修修了後
 - 専攻医の希望に応じて、①大阪スペシャルミックス病院群、京都大学外科交流センター所属施設、京都大学呼吸器外科や心臓血管外科関連病院、全国のがんセンター、循環器病センター、こども病院など専門疾患センターでサブスペシャリティ専門研修を継続、②京都大学大学院への進学、など幅広いキャリアパスの支援を行います。

3) 各研修施設の週間計画および年間計画

基幹施設（大阪赤十字病院）

共通	月	火	水	木	金	土
8:45- 手術	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 外来	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	

消化器外科	月	火	水	木	金	土
7:30-8:30 消化器術前カンファレンス		○				
7:30-8:30 消化器小児術後カンファレンス				○		
8:30-8:45 消化器外科部長回診		○		○		
17:00-18:00 重症カンファレンス、抄読会、学会発表予演会				○		
18:00-19:00 肝胆膵カンファレンス（消内、放診、病理）		○第1			○	
18:00-19:00 消化管カンファレンス（消内、放診、病理）			○隔週			

心臓血管外科	月	火	水	木	金	土
8:20-8:50 心臓外科カンファレンス	○	○	○	○	○	

呼吸器外科	月	火	水	木	金	土
16:00-17:00 呼吸器外科症例検討、回診			○			
17:00-18:00 呼吸器外科術前カンファレンス		○				
17:00-18:00 呼吸器合同カンファレンス（呼内）					○	

乳腺外科	月	火	水	木	金	土
8:00-8:30 乳腺カンファレンス（放治）、抄読会（隔週）				○		
8:30-8:45 乳腺外科総回診	○			○		
13:00-13:30 乳腺外科病棟カンファレンス				○		
17:00-18:00 乳腺カンファレンス（放診、エコー、病理）					○第2	
17:30-18:30 乳腺カンファレンス（放診）	○			○		

小児外科	月	火	水	木	金	土
7:30-8:30 消化器小児術後カンファレンス				○		
16:00-17:00 小児外科カンファレンス	○				○	

連携施設（田附興風会医学研究所北野病院）

消化器外科	月	火	水	木	金	土
8:00-9:30 術前カンファレンス、事務連絡		○				
8:00-9:00 抄読会、発表予演会、研究プログロス（第3）				○		
8:00-18:00 病棟業務（土曜は15:00まで）	○	○	○	○	○	○
9:00-17:00 外来業務（土曜は12:00まで）	○	○	○	○	○	○
9:30- 手術	○		○		○	○
13:00-14:30 術後カンファレンス、発表予演会		○				
14:00-15:00 総回診				○		
18:00-19:00 消化器センター合同カンファレンス				○		

呼吸器外科	月	火	水	木	金	土
9:00- 手術		○		○		
9:00-12:00 午前外来	○					
9:00-12:00 病棟業務			○		○	
14:00-16:00 呼吸器外科回診			○			
16:00-17:00 抄読会、勉強会			○			
13:00-17:00 気管支鏡検査	○					
18:00-19:00 呼吸器センターカンファランス	○					

乳腺外科	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00 朝カンファレンス	○	○		○	○	
8:30-9:00 総回診			○			
9:00-10:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○
10:00-12:00 午前外来	○		○			
13:00- 手術		○		○	○	
17:30- 放射線科腫瘍内科合同カンファレンス			○			
18:30-19:00 抄読会、勉強会	○					

心臓血管外科	月	火	水	木	金	土
8:30-9:30 朝カンファレンス	○	○	○	○	○	
10:00-16:00 手術	○		○		○	
17:00- 術後管理	○		○			
病棟総回診（時間不定）		○				
13:00-18:00 外来					○	
18:30-19:30 抄読会		○				
病棟業務（日勤帯の空き時間）		○		○	○	○

小児外科		月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	術前カンファレンス	○				○	
9:00-12:00	午前外来			○			○
9:00-12:00	午前手術	○	○				
12:00-16:30	午後手術	○					
13:30-16:30	午後外来		○	○	○	○	
17:00-17:30	術後カンファレンス			○			
17:00-17:30	抄読会			○			
19:00-21:00	小児科・小児外科合同カンファレンス	○					
	チーム回診	○	○	○	○	○	○

連携病院（大阪府済生会野江病院）

		月	火	水	木	金	土
9:10-	手術	○	○	○	○	○	
9:00-	午前外来	○	○	○	○	○	
13:00-	午後外来			○		○	
9:00-17:00	病棟業務	○	○	○	○	○	
7:30-8:50	消化器カンファレンス、 （消内、放診、放治、病理）		○				
7:30-8:50	外科カンファレンス					○	
9:20-9:50	消化器外科病棟ミーティング	○					
9:20-9:50	消化器外科 ICU ミーティング					○	
14:00-15:00	外科部長回診	○					
15:00-16:00	重症カンファレンス	○				○	
16:30-17:30	論文抄読会、学会発表予演会			○随時			
15:00-16:00	乳腺カンファレンス	○					
17:30-18:30	乳腺カンファレンス（放治、病理、専門看護師）	○隔週					
15:00-16:00	心臓外科術前検討会				○		
16:00-16:30	心臓外科 ICU カンファレンス	○			○		
17:30-18:30	心臓血管センターカンファレンス（循内）			○			
13:30-14:00	呼吸器外科術前ミーティング（病棟）		○				
16:30-17:30	呼吸器外科カンファレンス					○	
17:00-18:00	呼吸器カンファレンス（呼内、放治）	○					

連携病院（関西電力病院）

外科	月	火	水	木	金	土
8:00-8:30 抄読会	○					
8:00-8:30 化学療法勉強会			○			
8:30-9:00 朝カンファレンス	○	○	○	○	○	○
9:00-12:00 午前外来	○	○	○	○	○	○
9:00- 手術	○	○	○	○	○	
9:30-11:00 病棟業務(担当医による処置回診)	○	○	○	○	○	○
13:00-16:00 午後外来	○		○	○	○	
13:00-14:30 総回診 術前カンファレンス		○				
14:30-16:00 腫瘍内科合同化学療法カンファレンス		○				
16:00-17:00 術前カンファレンス		○				
17:00- 多職種合同消化器関連カンファレンス		○				

呼吸器外科	月	火	水	木	金	土
9:30- 総回診		○				
9:00-12:00 午前外来(呼吸器内科と隔週)				○	○	○隔週
10:00- 初診外来		○				
9:00- 手術	○		○			
13:00- 手術		○				
9:30-11:00 病棟業務(担当医による処置回診)	○	○	○	○	○	○
14:00-16:00 気管支鏡検査				○		
16:00-17:00 呼吸器内科・腫瘍内科合同カンファレンス		○				
16:00-17:00 術前カンファレンス	○					
19:30-20:30 胸部レントゲン読影会			○第4			

心臓血管外科	月	火	水	木	金	土
8:45-9:00 朝カンファレンス	○	○	○	○	○	
9:00-9:30 病棟、ICU 回診	○	○	○	○	○	○
9:00-12:00 午前外来				○		
9:30- 手術	○		○		○	
9:30-11:00 病棟業務(担当医による処置回診)	○	○	○	○	○	○
13:00-16:00 午後外来				○		
13:00-14:30 総回診 病棟カンファレンス				○		
14:30-16:00 循環器内科合同カンファレンス		○				
16:00-17:00 術前カンファレンス					○	
17:30-18:00 抄読会		○				

連携病院（市立岸和田市民病院）

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00 術前・術後カンファレンス	○					
8:00-9:00 論文抄録会、学会発表予演会			○			
8:00-9:00 部長回診					○	
9:00- 手術	○	○	○	○	○	
9:00- 病棟業務	○	○	○	○	○	
15:30-17:00 外科病理カンファレンス			○			
17:00-19:00 入院症例・術前・術後カンファレンス			○			
18:00-19:00 内科・放射線科・外科合同カンファレンス		○				
17:00-19:00 呼吸器科合同カンファレンス		○				
16:30-17:30 心臓外科・循環器内科合同カンファレンス			○			
17:00-18:00 乳腺外科カンファレンス	○					

連携病院（大和高田市立病院）

	月	火	水	木	金	土
8:00-8:30 術後・問題症例カンファレンス（病理・放射）		○				
8:00-8:30 病棟カンファレンス	○				○	
8:45-8:00 部長回診		○			○	
9:00-12:00 外来（一般）	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 上部消化管内視鏡（外科担当）		○		○		
9:30- 手術（木 8:45- 局麻、脊麻）	○		○	○	○	
13:00-17:00 乳腺外来		○		○		
13:00-17:00 血管外科外来		○				
13:00-17:00 大腸肛門病外来				○		
13:00-16:00 下部消化管内視鏡（外科担当）		○		○		
17:30-18:30 術前・重症症例・相談症例カンファレンス （内科・放射・エコー検査）		○				
17:30- 論文抄読会、学会発表予演会				○		
18:00-19:00 乳腺カンファレンス（放診、エコー、病理）					○	

連携病院（KKR 枚方公済病院）

	月	火	水	木	金	土
8:20-8:30 抄読会					○	
8:30-9:00 消化器内科・放射線科合同カンファレンス		○			○	
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○	○	○	○		
9:00-12:00 午前外来	○	○		○	○	
13:00-14:00 病棟回診					○	

連携病院（美杉会佐藤病院）

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00 会議	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○	○	○	○	○	
9:00-13:00 外来	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	
16:00-17:00 論文抄読会、学会発表予演会	○					
17:00-18:00 術前・術後・問題症例カンファレンス	○					
16:00-17:00 病理カンファレンス			○			
17:00-18:00 消化管、呼吸器、乳腺カンファレンス	○					

連携病院（愛仁会千船病院）

	月	火	水	木	金	土
8:00-8:15 抄読会	○					
8:00-8:15 MMG 読影カンファレンス					○	
8:15-8:30 症例カンファレンス	○	○	○	○	○	
8:30-9:00 病棟回診	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○	○	○	○	○	
9:00-17:00 外来	○	○	○	○	○	

研修プログラムに関連した全体行事の年度スケジュール

月	全体行事予定
4	・ 外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布、日本外科学会参加（発表）
5	・ 研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	・ 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
10～ 12	・ 各種学会参加（発表）
2	・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出） ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出） ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
3	・ その年度の研修修了 ・ 専攻医：年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・ 指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 ・ 研修プログラム管理委員会開催

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアルー到達目標 3-参照）

基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

- 術前・問題症例カンファレンス：手術予定患者の画像を中心に評価を行い、治療方針、手術術式などの術前最終検討を行います。手術適応や術前検査に問題がある症例を提示し、治療方針を検討します。
- 術後・重症症例カンファレンス：手術所見の報告を行い、重症症例を全員で検討します。
- 肝胆膵、消化管カンファレンス：肝胆膵症例と消化管症例を別日に分け、消化器内科、放射線科、病理診断科と合同で術前患者の診断と手術適応を検討し、術後患者の手術所見や病理結果と術前診断の照合を行います。
- 乳腺カンファレンス：乳癌症例について放射線診断科、放射線治療科、エコー技師、病理診断科と合同で術前診断、治療、術後診断を検討します。
- 小児外科カンファレンス：小児外科症例の術前診断、術式、術後評価を行います。
- 基幹施設と連携施設による研究会（下記参照）：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。他に学会地方会や研究会で症例報告、手術手技報告、研究発表を行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 大動物（ブタ）を用いたトレーニング設備やDVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。
- 日本外科学会学術集会教育プログラム、e-ラーニング、各種研修セミナーや各病院内で実施される講習会などで下記事項を学びます。標準的医療、先進的医療、医療倫理、医療安全、院内感染対策、緩和ケア

大阪スペシャルミックス外科勉強会

近畿外科学会
大阪外科集談会
消化器外科手術を考える若手外科医の会
研修医のための消化器外科セミナー
関西若手外科フォーラム
近畿外科病態研究会
北大阪外科懇話会
南大阪消化器外科談話会
奈良消化器病研究会
京都大学外科夏季研究会
京都大学外科冬季研究会
京都大学外科関連施設癌研究会
京都腹腔鏡手術セミナー
低侵襲外科手術手技を語る会
阪神 3K の会
奈良内視鏡外科研究会
京都肝胆膵外科セミナー
京都肝胆膵外科カンファレンス
近畿肝臓外科研究会
関西肝臓外科医育成の会
近畿肝癌談話会

大阪胆道疾患研究会
近畿膵疾患懇話会
阪神膵臓外科研究会
大阪市北部早期膵癌発見プロジェクト
京都ラパヘル教育セミナー

比叡山カンファレンス（心臓外科）
京都心臓血管ハンズオンセミナー

京都大学呼吸器外科手術セミナー
京都大学呼吸器外科研究発表会
胸部腫瘍セミナー

京都乳癌コンセンサス会議
日本乳癌学会近畿地方会
上方乳癌研究会
B3 サミット
京都在がん薬物療法研究会

京都大学小児外科研究会セミナー
大阪小児外科カンファレンス

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエストを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。

学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。

(専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照)

- 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 臨床医としての姿勢について

(専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照)

医師として求められる姿勢には態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

- 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - 的確なコンサルテーションを実践します。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
 - 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。
- 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
 - 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
 - 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
 - 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは大阪赤十字病院を基幹施設とし、阪奈地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医資格の取得に必要な経験を積むことに大変有効です。診療対象疾患や手術術式とともに他科、他職種、地域との連携は施設ごとに特色があります。複数の連携病院で多種多様な症例を経験することで医師としての基本的な判断力、実践力、コミュニケーション力を獲得します。大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムのどのコースに進んでも十分な質と量の診療が経験できるように配慮します。施設群における研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、医療体制を勘案して、当研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアルー経験目標 3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に地域医療の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専攻医の評価については指導医のみならず、医師以外の職種からも行います。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、臨床医としての姿勢と外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である大阪赤十字病院には、大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、外科の6つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）の研修指導責任者からなる統括副責任者（副委員長）、事務局代表者、他職種代表者および各連携施設担当者などで構成されます。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

12. 専門研修指導医の研修計画について

専門研修指導医は厚労省臨床研修指導医講習会や京都大学外科交流センター主催の下記研究会および、京都大学医学教育推進センター主催の下記講演会等で指導方法に関する研修を受けます。

京都大学外科夏季研究会

京都大学外科冬季研究会

現場で働く指導医のための 医学教育学プログラム

Medical Education Interactive Seminar

13. 専門研修プログラムの改訂について

専門研修プログラム管理委員会は、各年度末に集計される専攻医や指導医からの無記名および記名アンケート結果などをもとにして専門研修プログラムの継続的改良を行います。

14. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の指導責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘル스에配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

15. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に基幹施設や連携施設の研修プログラム管理委員が研修プログラム管理委員会に諮問し、研修プログラム統括責任者が修了判定の可否を決定します。知識・技能・態度のひとつでも欠落する場合は修了と認めません。

16. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専門研修プログラム整備基準に基づいて、専攻医の申請を研修プログラム管理委員会に諮ります。妊娠、出産、育児、傷病、その他の正当な理由による長期の休暇が取得可能です。性別にかかわらず研修、就業、キャリア形成ができるよう配慮します。

17. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

日本外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、指導医マニュアル、専攻医研修実績記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総合的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

大阪赤十字病院において、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

日本外科学会から更新されますので、最新版を参照してください。

●専攻医研修マニュアル <https://www.jssoc.or.jp/procedure/specialist/info20150414-03.pdf>

「専攻医研修マニュアル」参照。

●指導者マニュアル <https://www.jssoc.or.jp/procedure/specialist/info20150414-02.pdf>

「指導医マニュアル」参照。

●専攻医研修実績記録フォーマット <https://www.jssoc.or.jp/procedure/specialist/info20150414-04.pdf>

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

18. 専攻医の採用と修了

採用方法

大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムでは、随時説明会や見学者を受け入れ、外科専攻医を募集しています。応募者は、下記必要書類を「大阪赤十字病院人事課」宛に提出するとともに、日本専門医機構のWebシステムへの登録を行ってください。応募者に対して面接審査を行い、大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラム管理委員会において選考し、採否を本人に文書で通知します。1次登録での採用状況により、2次登録を行います。Web登録締切日や募集要項の詳細については、日本専門医機構の告知とともに大阪赤十字病院のホームページを確認してください。

応募申請書、履歴書は、大阪赤十字病院および各連携病院のホームページからダウンロード可能です。

1) 応募必要書類

応募申請書（指定書式）

応募履歴書（指定書式）

希望サブスペシャリティ・応募理由と抱負（指定書式）

医師免許証（コピー）

臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書

2) 基幹病院および連携病院のウェブサイト

大阪赤十字病院	http://www.osaka-med.jrc.or.jp
田附興風会医学研究所北野病院	http://www.kitano-hp.or.jp
大阪府済生会野江病院	http://www.noe.saiseikai.or.jp
市立岸和田市民病院	http://www.kishiwada-hospital.com
関西電力病院	http://kanden-hsp.jp
大和高田市立病院	http://ym-hp.yamatotakada.nara.jp
KKR 枚方公済病院	http://www.kkr-hirakoh.org
美杉会佐藤病院	http://www.misugikai.jp/satou_h/
愛仁会千船病院	http://www.chibune.aijinkai.or.jp

3) 応募および問い合わせ先 大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラムと明記してください。

〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30

大阪赤十字病院 人事課 吉田 薫

電話 06-6774-5111 E-mail: jinji@osaka-med.jrc.or.jp

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の 5 月 31 日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局 (<https://www.jssoc.or.jp/>) に提出します。

修了要件

専攻医研修マニュアル参照（日本外科学会ホームページ参照）

19. 外科専門研修修了後のキャリアパス支援

3年間の大阪スペシャルミックス病院群外科専門研修プログラム修了後の進路に関して、専攻医の希望に応じてキャリアパスサポート体制を整えています。

- ① 大阪スペシャルミックス病院群、京都大学外科交流センターに所属する 64 施設 (<http://www.kyoto-u-sa.or.jp/>参照)、京都大学呼吸器外科や心臓血管外科関連病院でサブスペシャリティ修練を継続
- ② 大学院へ進学
- ③ 全国のがんセンター、循環器病センター、こども病院などナショナルセンターや専門疾患施設への異動
さあ、一緒に働きましょう。明るい未来が開けています。

作成履歴

2016年12月24日	第1.1版作成
2017年5月26日	第1.2版作成
2017年7月24日	第1.3版作成
2017年9月11日	第1.4版作成
2018年5月1日	第1.5版作成